

千葉県の保護上重要な野生生物 —千葉県レッドデータブック— 追録

第3号 (平成26年8月)



アダチアカサシガメ 尾崎煙雄撮影

○本号での変更

本号で行う変更は、次の5種です。

種名	変更内容	変更理由
ツクシサカネラン	Xとして新規追加	かつて千葉県内に生育していたことが確認された。
エイザンスミレ	Aとして新規追加	千葉県内からあらたな生育地が発見された。
イスミスズカケ	名称変更	既知種と考えられていたが、新種として別名で記載された。
アダチアカサシガメ	XからAに変更	絶滅と考えられてきたが、あらたな生息地が発見された。
オキアサリ	XからAに変更	絶滅と考えられてきたが、あらたな生息地が発見された。

千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—追録第3号(平成26年8月)

2014年8月発行

編集 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会

発行 千葉県環境生活部自然保護課 〒260-8667 千葉市中央区市場町1番1号

電話 043-265-3601 / ファックス 043-265-3615 (千葉県生物多様性センター)

URL <http://www.bdcchiba.jp/>

○本追録の位置づけ

千葉県では、保護すべき貴重な野生生物のリストである「千葉県の保護上重要な野生生物-千葉県レッドデータブック-」及び「千葉県レッドリスト」をおおむね5年の間隔で発行してきました。しかし、毎年のように未記録の野生生物の発見が報告され、5年の間隔では緊急時に対応できないことが明らかとなってきました。そこで平成22年度から原則として年一回、レッドデータブック・レッドリスト掲載種の追加、ランク変更、削除等を行い、追録として公表しています。

本追録は、緊急を要する絶滅危惧生物のランクの改訂等を掲載し、広く県民に最新の情報を伝えることを目的としています。このため、冊子体のほかインターネットによる公開を行っています。

○レッドデータランク等について

本冊子でランク変更、追加、削除がなされた種については、本冊子の記述が優先し、以前に発行された「千葉県レッドデータブック」及び「千葉県レッドリスト」の記述は無効となります。

X ツクシサカネラン ラン科

新規追加

消息不明・絶滅

Neottia kiusiana Hashim. et Hatus.

絶滅危惧 IA 類 (CR)

【新規追加理由】 近縁種との関係が詳しく研究されツクシサカネランと同定されたため。

【種の特性】 菌類に寄生する多年生草本。照葉林の腐植土に生える。茎は高さ20cmほど、地下の根茎から1~数本の茎を出し茎の基部に無葉緑の鱗片状の葉がある。花は6月に咲き、花被片は白色透明で後に淡い褐色に変わる。[G]

【分布】 九州南部、本州中部（愛知県北部）、関東。韓国（済州島）。

【県内の状況】 1958年に清水大典によって清澄山で採集され、津山尚によりサカネラン属の1種と同定されていたが詳しく研究されず、後に鹿児島県鶴田町で採集されツクシサカネランとして記載された種類と同一種であることが明らかにされた（遊川知久2009）。清澄山では最初に採集された標本のほかに記録はなく、現在は消息が不明である。

【保護対策】 清澄山における本種の生育地を再確認することが必要である。

【文献】 遊川知久 2014 ツクシサカネラン 岩科司・海老原淳編 ウォッチング日本の固有植物 14-17.

【写真】 1958.6.15 清澄山 清水大典採集 国立科学博物館所蔵標本 TNS 307293. 大場達之.

(大場達之)



A エイザンスミレ スミレ科

新規追加

最重要保護

Viola eizanensis (Makino) Makino

【新規追加理由】 県内唯一の群生地が新たに発見されたため。

【種の特性】 小型の夏緑多年生草本。高さ夏期、20cm 程度。葉はすべて根生する。花時の葉は細裂するが、夏期は3裂または5裂し、粗い鋸歯がある。花は4月頃咲き、白または淡紅色。果実は卵形で、3裂し、茶色の種子を飛ばす。夏期には、閉鎖花をつける。虫媒で自動散布及びアリ散布。[G]

【分布】 本州、四国、九州。

【県内の状況】 千葉市で文献記録があり、袖ヶ浦市川原井で1998年に標本が採集されている。再び2013年6月17日、袖ヶ浦市川原井の2ヶ所で、25株発見された。北向きのスギや常緑樹の混じる雑木林と農道との間の緩い斜面に生育する。周辺の都県の山地にはかなり広く分布するが、県内では極めてまれ。

【保護対策】 自生地を現在の管理の状況で維持する。除草剤を撒かれないように土地所有者に注意喚起が必要。

【文献】 千植誌 2003 : 378

【写真】 袖ヶ浦市 (1998.7.20 CBM-BS-154402) 千葉県立中央博物館所蔵標本。

(天野誠)



最重要保護

A イスミスズカケ ゴマノハグサ科 (オオバコ科)

植物名変更

最重要保護

Veronicastrum noguchii K.Uehara, K.Saiki et T.Ando

絶滅危惧 IB 類 (EN)

【植物名変更理由】 本種は当初スズカケソウ *Veronicastrum villosulum* (Miq.) T.Yamaz. として扱われてきたが、上原他の研究により独立の種であることが明らかになったので、名称を変更する。

【備考】 産地・分布域には変化はなく、千葉県における保護の重要度にも変化はない。新種の記載に当たっては、APGIIIに従って所属はオオバコ科として扱われている。

なお千葉県の維管束植物で種ランクでの固有種は本種のみである。

【分布】 千葉県。

【県内の状況】 2009年にいすみ市で発見された。

【文献】 K.Uehara, K.Saiki & T.Ando 2013 *Veronicastrum noguchii* (sect. *Plagiostachys*, Plantaginaceae), a new species from Japan. *Acta Phytotax. Geobot.* 63: 64-69 / 上原浩一・斎木健一 2014. 千葉県生物多様性センター研究報告 7 : 79-90.

【写真】 (右) 2010.7.14 (左) 2014.7.8 千葉県いすみ市 大場達之。

盗採の可能性に配慮し、分布図省略。

(大場達之)



最重要保護

A アダチアカサシガメ サシガメ科

XからAに変更

国：掲載なし

Haematoloecha adachii Tachikawa, 1968

千：A-A-X

【ランク変更理由】県内から生息が再確認されたため。

【種の特性】体長 12mm 前後。黒地に赤色の斑紋のある美しいサシガメで、同属のアカシマサシガメによく似ているが本種は前胸背前葉が黒いことにより区別される。なおこの属のサシガメ類は、ヤスデ類を専食することが知られている。

【分布】千葉県清澄山、鴨川市、高知県松葉川、隠岐諸島、静岡県、伊豆諸島の神津島、御蔵島、三宅島。

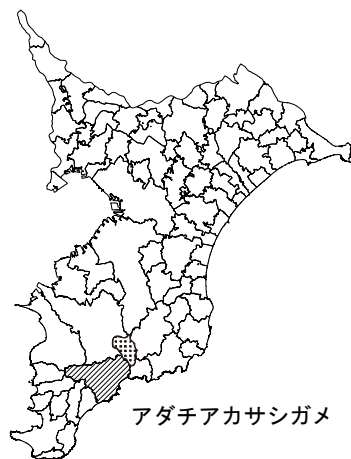
【県内の状況】模式産地である清澄山を含む千葉県では 1954 年採集のタイプ標本を最後に全く採集されていなかったことから、「千葉県 RDB 動物編 2011 年改訂版」で A から X に変更された。ところが、

中央博物館重点研究課題「房総丘陵における清澄山系の昆虫相の特異性」の 2012 年の調査で幼虫を含む複数個体が採集され、2013 年も同様に生息が確認されたため、再度 X から A に変更する。

【保護対策】生息地である清澄山周辺の自然状態を維持管理することが望ましい。

【文献】立川 (1968) / 尾崎・斉藤 (2013) 千葉県清澄山で 58 年ぶりにアダチアカサシガメを採集. 月刊むし, (506): 44 / 宮内 (2013) 千葉県鴨川市でアダチアカサシガメを採集. 千葉生物誌, 63(1): 21.

【写真】2012 年 12 月 12 日. 君津市 / 尾崎煙雄



(鈴木裕 / 斉藤明子)

アダチアカサシガメ

A オキアサリ マルスダレガイ科

XからAに変更

国：掲載なし

Gomphina donacina (von Mühlfeld, 1811)

千：X-X-X

【ランク変更理由】県内から生息が再確認されたため。

【種の特性】殻長 50 mm、殻高 37 mm、殻幅 20 mm 程度の垂三角形、厚質、腹縁は直線的。殻頂はやや前方に寄り、頂点となる。殻表は平滑で、光沢は弱い。灰青色等、種々の色彩を呈し、放射彩を持つこともある。内湾域の潮通しのよい砂泥底に生息していると考えられる。九十九里浜等の外洋の砂底に生息するコタマガイと同種とされることもあるが、本種は小形で、腹縁が直線的なことにより識別される。

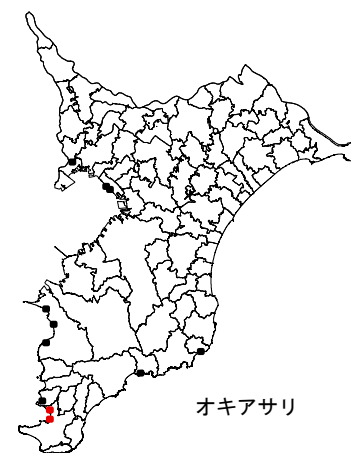
【分布】房総半島～九州。台湾、中国沿岸。

【県内の状況】完新世の化石の可能性も残るものは東京湾からも得られているものの、富津市から外房では記録が見られただけであった。確認できた生貝の可能性のあるものは、1931 年の館山市船形の個体のみであった。そのため、2010 年の千葉県レッドデータブックでは、消息不明・絶滅とした。今回、館山市那古と北条で、新鮮な合弁個体が確認された。この群は、一度、千葉県では絶滅したものが新たな幼生の分散により定着したものと考えられる。

【保護対策】今回の定着群の今後の動態を長期間継続して追跡するとともに、生息地の水質汚染・底質環境（粒度組成等）・埋め立て等の変化を生じさせないようにする必要がある。

【文献】石山 (1967) / 岡本・黒住 (1996) / 清水 (2001) / 立川ほか (2007)

【写真】2013 年. 館山市 / 谷口智彦所蔵標本 (TPC-T15137) / 黒住耐二 (黒住耐二)



オキアサリ